［活動報告］

19世紀学学会活動報告（2008年度）

2008年４月25日（金）	**研究講演会**[*1] 松本　彰（新潟大学人文学部）「19世紀学とは何か：19世紀ドイツにおける市民社会・教養・学問」
2008年５月24日（土）	**第３回シンポジウム「19世紀学とは何か―19世紀学研究の可能性」**[*1] ●廣田　功（新潟大学経済学部）「19世紀と経済学の進化」 ●野崎眞澄（新潟大学理学部）「19世紀はダーウィンの時代：生物学的世界観の大革命」 ●曽田長人（聖学院大学人文学部）「人文主義研究と19世紀」 ●金山亮太（新潟大学人文学部）「血は水より濃いのか：英文学の場合」 ●後藤康志（新潟医療福祉大学健康科学部）「19世紀における教育とメディア」 ●木部美知子（新潟医療福祉大学健康科学部）「近代看護の確立と看護教育―19世紀という時代―」
2008年８月25日（月）	**特別講演会**[*1] Thomas SCHWARZ (Visiting Lecturer in New Delhi, India / DAAD), “Hybridity. A Critical Conceptual History”[*2]
2008年９月７日（日）	**公開シンポジウム「いまさら、ヨーロッパ―ARS（技術、芸術、科学）の分化と「近代」―」**[*1] ●川田順造（文化人類学）「技術、学問の指向性に見る＜近代＞」[*2] ●松本　彰（音楽史）「ハーモニーの科学と美学―クラヴィコードによるヨーロッパ音楽再考―」[*2] ●陣内秀信（建築学）「都市の劇場性―イタリアを中心に―」[*2] ●坂内徳明（ロシア民俗学）「ロシア民衆木版画に見るヨーロッパ近代」[*2] ●村上陽一郎（科学史）「19世紀の＜デモクラシー＞概念について」[*2]

2008年10月４日（土） －５日（日）	**第３回国際シンポジウム「19世紀の再評価―19世紀の可能性―」**[*1] ●Eric BENOIT, “19ème siècle français et modernité: auto-valorisation, dévalorisation, revalorisation”[*2] ●Wolfgang BRAUNGART, „ Das Erbe der Literatur des 19. Jahrhunderts“[*2] ●Dominique JARRASSE, “Les autres XIXe siècles. Réévaluation des arts et débat sur la modernité“[*2] ●Joachim RADKAU, „ Deutsche Lebensreformbewegungen um 1900“[*2] ●臼井隆一郎「東亜という広域概念―明治維新との関連で」[*2] ●大角欣矢「世界認識としての芸術享受―エドゥアルト・ハンスリックの音楽美学にみる芸術と学問の仲介の試み」[*2] ●佐々木充「シェイクスピアはロマン派？―19世紀前半におけるシェイクスピア―」[*2] ●橋本一径　「足跡から指紋へ― 19世紀フランスの法医学と身元確認」[*2] ●廣田　功「『近代フランス料理』成立の社会文化史的意義」[*2]
2008年11月27日（木）	**第３回プロジェクト研究会**[*1] 鈴木佳秀（新潟大学）「ヴェーバーと古代ユダヤ教」
2008年12月６日（土）	**第18回近現代東北アジア地域史研究会大会**[*3]
2008年12月12日（金）	**第５回講演会**[*1] 宮﨑祐助（新潟大学人文学部）「決断主義なき決定の思考：シュミットの主権的決断からデリダの受動的決断へ」
2009年１月12日（月）	**鈴木佳秀教授退官記念特別シンポジウム「学問・教養・19世紀」**[*1] ●石井紫郎（東京大学名誉教授）「日本法学の草分けとヨーロッパ19世紀の知―「国體」と進化論―」 ●佐藤彰一（名古屋大学教授）「19世紀フランスの歴史学と歴史教育」 ●佐藤慎一（東京大学教授）「19世紀西洋の思想遺産と中国―進化論、アナーキズム、マルクス主義―」 ●鈴木佳秀（新潟大学教授）「最終講義：『ヨブ記』における神義論と19世紀学」
2009年３月16日（月）	**シンポジウム「19世紀の再検討―身体論、思想史、比較文化論の立場から―」**[*1] ●橋本一径「国民・身体・同一性―19世紀フランスにおける新生児の出生確認―」 ●坂本貴志「オルフェウスのバラード―ゲーテ、シラーとヘルメス的伝統」 ●大宮勘一郎「魔笛の19世紀―分身論の視座から―」 ●前田良三「学知論の19世紀（と日本）」 [*1] 19世紀学研究所と共催 [*2] 本誌に掲載 [*3] 19世紀研究所とともに共催者として参加